



中小総研

Windows XP サポート終了 (IRSME13025)

平成 26 年 1 月 10 日 原田長州

マイクロソフト社のOS（基本ソフト）「Windows XP」は、2014年4月9日をもって製品サポートを終了する。製品サポートが終了した後でも、Windows XPが搭載されたパソコンが起動しなくなるわけではないが、製品サポート終了以降はセキュリティの更新プログラムの提供が終了する。セキュリティ対策のとられていないパソコンを使い続けるリスクが発生する。

本稿ではどのようなリスクが存在するか確認し、対応策について検討する。

■ サポート期間終了後に Windows XP を使い続けるリスク

1. 情報漏えい

製品サポート終了後も、当該パソコンを利用し続けるとコンピュータの防御ができず、Windows XPのパソコンに保管されているデータの消失・改ざん・盗み見・不特定多数への公開等の危険にさらされる可能性がある。

セキュリティ更新プログラムが適用されないと外部から悪意のあるソフトウェアによって、パスワード設定やアクセス権限設定等を無効化してしまうことがあります。セキュリティ更新プログラムは、OSのセキュリティ上の不具合を修正するためのものだ。更新プログラムが提供されないことにより、家にたとえると一部の窓で鍵のかかっていない状態になってしまう。製品サポート期間であれば、更新プログラムを適用することで修正が可能だ。2014年4月以降は、Windows XPを使い続ける限り更新プログラムの提供はない。

2. データに対する攻撃

データに対する攻撃では、自社データのみであれば被害は自社内完結するが、悪意のあるプログラムに感染してしまうと外部からパソコンが自由に操作できることになる。悪意のある攻撃者は、特定の標的にむけて攻撃を仕掛ける際に、攻撃元を隠すために複数の地域・パソコンから攻撃することが知られている。そのため知らない間に加害者になってしまふことがあります。他のコンピュータを攻撃するために自社コンピュータを乗っ取られ、他のパソコンに対して攻撃する・スパムメールなどを発信する踏み台にされるなどの事態が発生し、あたかも自社が攻撃者のように見えてしまい、場合によっては捜査の対象となる。

平成 26 年 1 月 10 日

(IRSME13025) Windows XP サポート終了

■ 対応策

このような危険性があるためマイクロソフト社は、Windows XP パソコンから新しいバージョンの OS へ乗り換えを促している。同社は、自社のデータへの影響、機密データがないパソコンであっても、社内にある他のパソコンや社外の取引先や無関係なインターネットを利用する人へ悪影響が及ぶ可能性を指摘しており、バージョンアップを積極的に促している。

■ まとめ

対策は限られており、(1) パソコンはそのままで OS をアップグレードするか (2) パソコンを入れ替えるという方法しかない。パソコンをそのまま OS をアップグレードする場合、購入してから期間が経過しているパソコンのスペックが新しい OS が動作する基準を満たさないことが懸念される。動作環境を満たしていた場合でも、動作はするものの快適に操作できない恐れがある。また、インターネットに接続されていないパソコンには影響がないという考え方もあるが、USB メモリーなど経由して悪意のあるプログラムに感染することがあり、完全な対策とはなり得ない。

今回の Windows XP のサポート終了に合わせて複数台のパソコンを一斉に更新する場合、次の更新も一斉にむかえることになる。計画的にパソコンを入れ替えることで更新台数の偏りを防ぎ、リスクの時間的分散を図ることができる。(ア)